

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立三瀬小学校

令和8年4月に、文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童・生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童・生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

調査期日 令和8年4月23日（木）

質問調査は、4月27日(月)に実施

調査の対象学年 小学校第6学年

調査の内容

(1) 教科に関する調査

国語、算数

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。

② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。

調査問題では、上記①と②を一体的に問うている。

(2) 質問調査（1人1台端末を用いたCBT方式）

児童生徒に対する質問	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校に対する質問	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

教科に関する調査結果及び考察について

・全国学力・学習状況調査は、小学6年生及び中学3年生を対象に、国語、算数・数学、英語について実施されています。

・また、調査問題は、各教科の一部の内容について出題されているものであり、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」です。

したがって、調査結果を見る際には、この点をご理解いただいた上で、ご覧ください。

質問
調査

佐賀市学校教育ビジョンに関わる設問より（キーワード：自律・尊重・創造・主体性・当事者意識）

《質問領域：主体的・対話的で深い学び》

（注）数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合（％）

質問 番号	質問事項	本校 (%)	全国 (%)
39	前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	90.0	77.6
42	学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	90.0	85.7
46	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	90.0	91.4

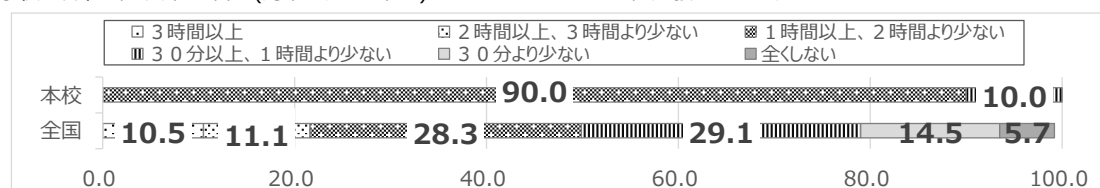
本校の調査結果 ※◎（強み）、●（課題）

- ◎自ら課題に向き合い、自分に合った学び方を考え、主体的に学習に取り組む姿が見られます。
- ◎学級全体の仲がよく、みんなで助け合い、協力しながら学習を進めることができています。
- ◎授業時間以外の学習時間は、90%の児童が「1時間以上、2時間より少ない」と回答しています。家庭学習で宿題をきちんとしていることが分かります。
- 学級の友達との話し合い活動で、自分の考えを分かりやすく説明することに苦手意識がある児童が見られます。

《質問領域：主体的な学習の調整、学習習慣》

22	分からないことやわくわく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	100.0	79.4
43	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	100.0	78.4

23 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)1日当たりどれくらいの時間勉強していますか



《質問領域：自己肯定感、幸福感 等》

8	自分には、よいところがあると思う	100.0	85.6
10	将来の夢や目標を持っている	80.0	81.8
15	学校に行くのは楽しいと思う	100.0	85.7
21	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	100.0	92.5

本校の調査結果 ※◎（強み）、●課題

- ◎全員が自己肯定感が高く、前向きに明るく楽しく学校生活を送っていることが分かります。
- ◎全員が人の役に立つ人間になりたいと回答としています。学校でも最上級性として三瀬小の機関車となり、学校全体を引っ張ってくれています。

《質問領域：向社会性》

14	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	100.0	95.8
33	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	70.0	80.1

- 地域や社会との関わりを通して、自分も社会の一員であるという意識を高めていくことが求められます。

調査結果を受けて

【学校では】

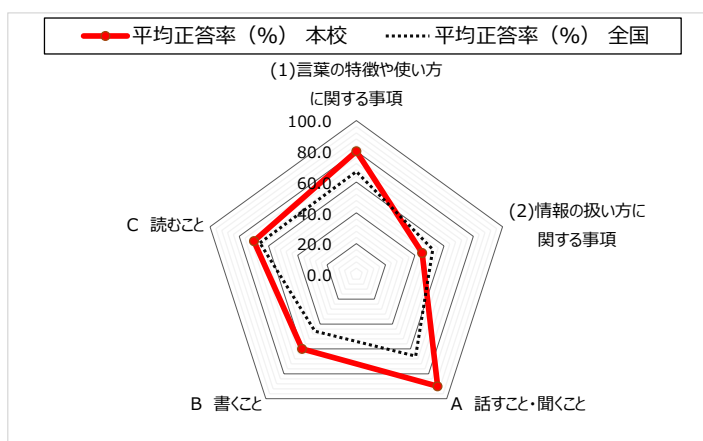
- 主体的に学習に取り組むことができるようにするために、授業の中で自分が取り組む問題数や順番等を児童に選択させる場を設定します。
- 深い学びにするために、実態に応じた集団(ペア・グループ・全体)や教具で活動させ、説明する活動を充実させます。
- いろいろな人と出会い、関わり合う場を設定することを通して、自分自身を見つめ、自らの将来について目を向けることができるようにします。

【ご家庭では】

- 主体性を育むために、子どもの話に耳を傾け、気になることがある時は、「どうしたの?」「あなたは どうしたい?」と声をかけ、子ども自身が自分で考え、自己決定をすることができる場をつくってください。
- 子どもが考えたことや頑張っている姿に目を向け、「何か手伝えることはある?」という伴奏の姿勢で見守ってください。また、結果だけではなく子どもの頑張りを褒めて励ます声かけを多くしてください。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容		平均正答率 (%)	
		本校	全国
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	80.0	66.8
	(2)情報の扱い方に 関する事項	45.0	52.3
思考力、 判断力、 表現力 等	A 話すこと・聞くこと	90.0	65.8
	B 書くこと	60.0	45.7
	C 読むこと	70.0	65.9



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	75.6	61.9
短答式	70.0	62.6
記述式	60.0	54.9

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎「話すこと・聞くこと」では、全国を大きく上回っています。「書くこと」「言葉の特徴や使い方に
関する事項」でも、全国を10ポイント以上上回っています。資料を効果的に活用し、自分の考えを伝える力が身に付いています。また、比喻や反復等の表現の工夫についても着実に理解することができています。

●「情報の扱い方に
関する事項」に課題が見られました。情報と情報との関係について理解することが十分ではありませんでした。書くことの学習において文と文のつながりが適切であるかどうかを考えさせる必要があります。

《正答率の高い問題》【強み】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
1二 (1)	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる。	100.0	60.2
1二 (3)	比喻や反復などの表現の工夫に気付くことができるかどうかをみる。	100.0	65.2

《正答率の低い問題》【課題】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2二	考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解することができるかどうかをみる。	20.0	48.9
2四	引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。	40.0	33.5

調査結果を受けて

【学校では】

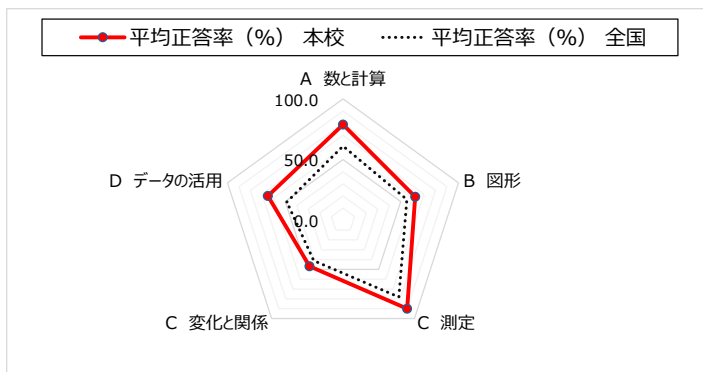
- 書かれている情報を的確に読み取り整理して、問題を解くことができるようにするために教材文・テストの問題に線を引いたり丸で囲んだり書き込みをしたりする等の活動を多く取り入れていきます。
- いろいろな表現の工夫をつかった短文をつくらせる活動を繰り返し取り入れることにより、語彙力を伸ばし、豊かな表現ができるようにします。

【ご家庭では】

- 音読を大切にしましょう。繰り返し音読することで、文の構成、文節ごとの区切り、言葉の意味を理解することができ、要点や意図を捉えることにもつながります。
- 読書を大切にしましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術等、様々な本を読み、いろんな表現や用語にふれることで、国語の力を高めることができます。親子で同じ本を読み、感想を話すことも、お子さんの読書習慣をつける上でおすすめです。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容	平均正答率 (%)	
	本校	全国
A 数と計算	78.8	61.1
B 図形	62.5	55.3
C 測定	90.0	78.1
C 変化と関係	46.7	41.1
D データの活用	65.0	48.6



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	68.0	56.0
短答式	68.8	59.7
記述式	73.3	48.5

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎学習指導要領の内容別、問題形式別の全領域で全国を上回っています。特に、記述式問題では、全国を大きく上回っています。自分の考えを分かりやすく表現する力が身に付いています。「数と計算」の問題2(1)概数と問題3(1)十進位取り記数法の正答率は、100%でした。日頃の家庭学習の成果が見られました。

●「変化と関係」では、全国を上回っていますが、正答率が46.7%で課題が見られました。単位量あたりの大きさを除法で求める時の式の意味を理解することが十分ではありませんでした。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2(1)	数を四捨五入して、概数で表すことができるかどうかをみる。	100.0	66.5
3(1)	小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくるかどうかをみる。	100.0	94.5

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2(3)	単位量あたりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断できるかどうかをみる。	30.0	36.1
4(3)	二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる。	30.0	17.9

調査結果を受けて

【学校では】

- 様々な見方や考え方ができるようにするために、授業の中で友達と話し合う活動を多く取り入れていきます。
- 算数で学んだことを生活に生かすことができるようにするために日常生活と結び付けた問題づくりに取り組ませます。授業の中でも、日常生活に関連した問題を解かせるようにします。
- 毎週木曜日の朝のスキルタイムを活用して、つまづきの多い問題に多く取り組ませ、弱点を補充していきます。また、発展的な問題にチャレンジさせます。

【ご家庭では】

- 算数が好きになるためには、「習ったことが生活の中で使えて便利だな。おもしろいな。」と思う経験が必要です。生活場面で算数を使うようにさせてください。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「ドライブで道のり・速さ・時間」「買い物で暗算・割合」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」等、ちょっと意識するだけで、身の回りには算数を使えるものがたくさんあります。